

過去と認識 —「ムードのタ」と「来着」について—

森山卓郎（京都教育大学）

海 蓮（京都教育大学大学院）

1 はじめに

- (1) 你姓什么来着?
- (2) “刚才还汪汪叫来着。”（井上靖「明日来る人」情系明天 译 林少华）
原文「今までくんくん泣いていたんだ。」
- (3) おなまえは何でした?
- (4) 「君は佐野を知っていたのか」驚きはその言葉の中に響いていた。（「されど我らが日々」）

■課題

日本語では、「た」がいわゆるモーダルな用法として、発見、想起などを表す。「来着」もよく似た用法をもつ。その一般的なメカニズムは何か。これらを対照することで、いわゆるモーダルな用法（語氣的な用法）を解明できないだろうか。併せて、共通性と相違点を検討することも必要である。

2 従来の研究

2-1 「来着」

- ・太田1947：単なる過去、近過去ではなく、過去の持続。過去の動作に枠を設定する。
- ・張 2000：来着 1 と来着 2、来着 1 は客観的過去、主観的に近い過去、持続動詞
(5) *我是 1986 年出生来着 私は 1986 年に生まれた。
- ・宋 1981：語気詞としての来着 2 は省略可能。
- ・He1998：回数表現や数字の明示された目的語とも共起できない。ポラトネスの機能。
- ・遠藤（未公刊論文）：来着 1 を「背景となる事態の提示」、来着 2 を「忘却の前景化」というように談話機能から分析しようとする。
- ・呂 1987：「来着」は単なる思い出し語気助詞。
(6) 一九三八年，我在这一帶打游击来着。（“这是二十多年前的事了，可是还历历在目”。）
1938 年、私はこのあたりで戦争をしていた。（まだ記憶に新しい）
(7) 我要马上进去点几个名菜！都有什么菜来着？对了，“安东鸡”“松鼠鱼”（刘心武『钟鼓楼』）私はすぐ料理の注文をしに行く！どんな料理があるんだっけ？そうだ、“安东鸡”“松鼠鱼”
- ・アスペクト助詞や方向・結果補語、連用修飾語との共起ができない(呂 1983)、
・動詞を重ね型にすることもできない(史 1994)。

2-2 日本語のムードの「た」

(8) あ、ここにあった。(今ある) → 発見や想起などの意味 (寺村 1984)

(9) 昨日雨が降った。(切り離された過去)

(10) あ、荷物が落ちた。(今とつながる過去)

ムードの「た」をどう位置づけるか

ムードを表す「た」として位置づける立場(寺村 1984 など)と過去の表現として関連づけて位置づける立場(井上 2001、定延 2004、金水 2001 等)があるが、現在成立していることを過去の表現として位置づけることのメカニズムをいかに説明するかが課題。

■ 井上 2001 : p 153

1) 「た」は発話時以前の出来事・状態であることを表す

2) 日本語では、発話時以前のある時点で観察された(発話時以前に認識すべきだった、発話時以前に体験された)状態 p を、発話時における同一の状態 p から切り離して独立に叙述することが容易である。 → いわば、観察時の状態を前景化。

■ 定延 2004 : 知識、情報のアクセスポイント、探索という概念から分析

1) 発見の「た」 : 発話者が限られているが代行者は例外・モノを発見する場所がかかわる・探索課題が設定され思いまどいの効果・時点限定表現がなされない。「『た』が直接的に表すのは、体験時点が過去であるということ」(p24)

2) 思い出しの「た」 : 「現在というアクセスポイントがうまく働かない」「そこで、その知識に触れた過去の時点が次善のアクセスポイントとして選ばれる」(p40)、p34「探索という体験由来の知識であって、体験したいではない」

3) 知識修正の「た」 : 「古い知識情報の登録内容を抹消するため、アクセスポイントとしては、古い知識情報の登録時点が選ばれる」(p43)、

2-3 日本語と中国語に共通する問題 : 課題

- ① 「来着」の「過去」「語気」という意味のつながりをどう考えるか。
- ② 動詞の用法、述語の状態性との関連。
- ③ 方言差、個人的な用法差にどう対応するのか。
- ④ それぞれの違い、想起の「たっけ」、進行中の「在～」などの他形式との関わり。

3 想起・発見の「た」

3-1 状態述語

(11) 彼は日本人だった。 cf 定延 2004 「笑った」

3-2 情報受容と認知的メトニミー

変化前の認識と変化後の認識がある場合、無標の表現として変化後の認識(=今の認識)を表す。しかし、変化の過程を表す場合、変化前の認識を表す必要がある。隣接的把握。

(12) ふーん、彼は責任者か。

ウ ‘動きの予定の想起」 「のだ」型の場合、「状態」を表すのではなく、動きがあるという予定のある状態を表示。

(19) 忘れていた。明日行くんだった。(=行くことになっているノダッタ)

ウの場合、現在のことだが、すでに成立していた過去のあり方に焦点をあてた述べ方。

エ 認識の過去=発見

過去にはアクセスしていない。すでに成立していた出来事を観察したという点で、相対的過去を表示。この述べ方ができるのは状態述語。状態述語はそのあり方が変動なしにつづくことを表すから、現在も成立しているが、すでにそのことがあるのだった、ということとして表示できる。この場合も、「知っておくべきだった」「忘れていた」などのニュアンスがある。言及しているのは、「すでに成立していた」ということなので、その場で本当に発見したこととしては使えない。発見である以上、疑問文では使えず、情報受容型疑問文としてなら使える。

(20) 彼のことを調べてみたら、なんと、彼は責任者だった。

(21) *なんと、彼は責任者だったっけ。

-----+----->

今

観察時

~~~~~すでに成立している過去があったということに焦点  
状態の持続：彼=責任者

### オ 反事実過去 (ここでは割愛)

キャンセル可能か？ 過去に成立した選択的事態と、過去形によって現在と相違があることが表される。

(22) あのと看、右に曲がるべきだった。

(23) みだとわかってたら、つりにいったのに。

-----+-----+----->

観察時

今

右に曲がるべきだ

過去≠現在 というアの把握

モーダルとされる意味は、発話時以前という意味から連続性をもって導き出される。発話時点ではすでに成立している内容について、発話時点以前からすでに成立していることとして、隣接的に認識。基本的には個人的な認識。

### 3-4 過去表現スペクトラムとモンゴル語

・過去の事態・過去の観察：

(24) Ter ebcin te beeje.

彼 病気 であった

・モーダルな用法と事実に関する用法：＝今病気であることを見つけて言う。

過去の事に関連して現在のことを述べる：過去からの状態 (perfect 的把握)

(25) Ter ebciljo beessar.

彼 病気 (動詞) 継続状態

(26) Ter ebcin te beeje.

彼 病気 で あった (過去)

(27) Ter ebcin te beena.

彼 病気 で ある (現在)

(28) A, end beeje.

あ、ここ いた

(29) A, end beena (現在形)

あ ここ いる

ただし、人に解説する場合にはそのような過去との関連のあるとらえ方はしない。

(30) B muun. Bです

(31) ?? B beeje. Bでした 「知識の修正」というより文体？

### 3-5 「たっけ」の位置づけ

「たっけ」：単純想起 (過去情報の検索)、想起＋不確定

(32) あのところはよく柿を盗んで怒られたっけ。

(33) さっきぼくは何と言ったっけ？

(34) \*あ、コップが割れたっけ。

(35) え？ そうだったっけ (。・?)

(36) 僕の車どこに停めたっけ。

## 4 「来着」の基本的意味と過去表現スペクトラム

### 4-1 「来着」の意味は本当に二つとみるべきか

過去表現スペクトラムから「来着」の用法を位置づける。ただし、継続を表すという特性もある。

**来着①** 過去の持続 (再現的過去など) 事実の過去、観察の過去に相当。

(37) “一直这么想来着。” —安部公房「砂女」 「ずっと、そう、思いつづけていたんだ。」

過去の設定＋在等で表せる。南方では一般的ではない？

**来着②** 現在においても成立する、過去に経験した情報の再現：「想起」の過去

(38) “故宫的房子有多少间来着？”

“九千九百九十九间半。”—王朔「无人喝彩」  
南方方言でもこの表現でなければ使えないのでよく使うのではないか。

#### 来着②'

(39) 我忘了。明天去来着。

「動き」ではなく、動きの予定。： 予定状況の成立 [明天去] + 来着  
形態的に「のだ」に当たる表現ができないためか。

来着③現在においても成立する情報の再現、過去のアクセス時が仮構的：「発見」の過去

(40) 这本书在这来着。この本はここにあった！（本を指しながら）

「原来」などでも表現できる。南方方言では、原来などの使用？

### 4-2 基本的な意味と三つの用法はいかに関連づけられるか

基本的な意味：過去における imperfective な把握

・・・——・・・ < S T

過去のある場面での時間的持続を持つ事態を、その場の中から観察するとらえ方

ア 過去の継続状態の再現：来着①のばあい

継続動詞しか共起できない。量的な限界表現が言えないのはこのため。近い過去を典型とした過去の「再現性」：その場での事態進行をありありと再現するため。

しかし、動きの場合は、現在も成立することは通常含意されない。

イ 想起：来着②のばあい

動きではなく状態。状態述語の場合、事態の成立を時間的な変動の枠で捉えない。そのため、現在でも成立することが含意される。そして、現在も成立していることを、過去を再現しつつ述べる点で、過去に情報へのアクセスがあったことが表示される。

(41) -----+-----+-----+-----+----->

AcsT 姓～ 今

(文脈を調整すれば、過去の一時的状況として解釈が可能である)

(42) 你姓什么来着？ Politeness は過去の接触時点の記憶から相手尊重。

(43) 我以为你在北京来着。

(44) \*我认为你在北京来着。

「认为」は「来着」と共起しにくい。 「认为」は熟慮した考えであり、正しいという認識。それに対して、「以为」は自分の思い込みとしての表現ができ、意外感を出す？

ウ 発見：来着③のばあい

現在においてはじめて発見したような場合（その事態は現在において成立しており、過去のアクセスも実際にはないのだが）、自分が知らない間にすでに過去にその事態が成立



## 6 おわりに

日中両語における発見、想起などの語気の一般的説明。関連形式の意味用法の分析

日本人学習者にとって「来着」の用法上の注意

中国人学習者にとって「た」の用法上の注意

今後の課題：了のモーダルな用法など、用法の様々な拡張（劉 2004）

### ■参考文献

- 岩崎卓 2000 「日本語における文法カテゴリーとしてのテンスとは何か」『日本語学』19-5
- 国広哲弥 1967 『構造的意味論—日英両語対照研究—』三省堂
- 寺村秀夫 1984 『日本語のシンタクスと意味』くろしお出版
- 高橋太郎 1985 『現代日本語動詞のテンスとアスペクト』秀英出版
- 工藤真由美 1995 『アスペクト・テンス体系とテキスト』ひつじ書房
- 井上優 2001 「現代日本語の「タ」」『「た」の言語学』ひつじ書房
- 金水敏 2001 「テンスと情報」『文法と音声 III』（音声文法研究会）くろしお出版
- 定延利之 2004 「ムードの「た」の過去性」『国際文化学研究』21
- 三上章 1953 『現代語法序説—シンタクスの試み』刀江書院
- 森山卓郎 1992 「情報受容型疑問文をめぐって」『語文』59 大阪大学国文学会
- 太田辰夫 1947 「来着について」中国語雑誌 3-1（『中国語文論集』再録）
- 張誼生 2000 第4期(总第48期)大理师专学报
- 宋玉柱 1981 「关于时间副词的和来着」『中国语文』第4期
- 吕朋林 1987 汉语学习, 年 03 期
- 吕淑湘 1982 『漢語八百詞』商務印書館
- 劉綺紋 2005 「程度表現における“了”—“了”のモダリティ機能とアスペクト機能との認知的一体性—」『言語文化学』大阪大学言語文化学会